

オタクコンテンツがつくった闘争の場

台湾におけるオタクコンテンツの流通を例に

九州大学大学院 宋輝雄

1 目的

本研究の目的は、台湾におけるオタクコンテンツの流通と翻訳を巡る事例の考察を通して、ファンサブによって集まるファンの共同体の中の葛藤やイデオロギー闘争を明らかにすることである。

日本のオタクコンテンツの海外での流通についての研究は、主に欧米中心で行われてきた。そしてこの分野の研究は、ビジネス効果に重心を置く嫌いがある。アジアにおける非正規ルートでの流通、翻訳、受け入れ方についての研究は不十分と言えるであろう。世界中の流通状況から考えれば、確かに英語のファンサブの影響範囲は広い。しかし中国語のファンサブも無視できないほどの影響力を持っている。とくに中国語圏でのオタクコンテンツの翻訳を考える場合、繁体字と簡体字による台湾と中国とのイデオロギーの闘争は興味深い。

2 方法

事例の分析を通して、台湾のファンが中国で作られたファンサブからどのように影響を受け、それと同時にどのように対抗しているのかについて考察する。台湾で利用者数が一番多い掲示板「PTT」の「C_Chat」と「LightNovel」板におけるスレッドから、ファンサブなどの非正規ルートの利用者（以下、非正規利用者）の書き込みを特定し、正規流通業者（出版社など）や正規版翻訳に対する批判の言説を分析する。簡体字のファンサブを消費する台湾のファンたちが、どのように中国のイデオロギーに同化され、あるいは対抗しているのかを、台湾の政治状況と対照して考察する。

3 結果

まだ事例を集めている段階だが、いくつかの事実が確認できた。

- ① 日本のオタクコンテンツを通して国境を越えるファンの連帯が形成されており、繁体字と簡体字の用語が浸透し合うようになっているだけでなく、「日本式中国語」もファンの中で使われている。
- ② 非正規利用者は、ファンサブを持って正規版を批判するようになっている。
- ③ 台、日、中の間、ファンによる連帯は形成しているものの、若者における政治レベルの連帯にはあまり反映されていない。

4 結論

影響力を考えれば、海外でのオタクコンテンツの流通において、正規版より海賊版のほうが強いと言えるだろう。ファンサブのほうが正規版より「正統性がある」というファンと出版社との闘争、そして日本のコンテンツを消費する「オタク」という国境を越える共同体の中での国家イデオロギーの闘争、という二つの闘争の場の存在が確認できた。つまり、日本のオタクコンテンツは思わぬところに闘争の場を作っていることになる。

台湾のファンの間では、簡体字中国語のファンサブを通して日本のコンテンツを享受する、というパターンが確立されている。台湾の若者は日本のオタクコンテンツを消費しながら、知らないうちに中国のイデオロギーに影響されるようになっているが、その影響力は他の要素によって緩和されているためか、政治傾向にはあまり反映されていないと思われる。